

広報
函館発

共働通信

第11号

2005年
1月1日

きょうどうつうしん



平成16年度 誕生祝賀会より
撮影場所/函館共働宿泊所救護部 会場にて
撮影日時/平成16年12月3日

目次

平成16年度<助成事業報告>	2 P
しせつ探検隊<鏡の帰郷>	3 P
歴史回廊・第7回<昭和初期・其の弐>	4 P
函館防火協会優良会員会長表彰受賞	5 P
自衛消防技術大会優勝	5 P
誕生会・通信欄・お知らせ	6 P

平成16年度助成事業報告

この度、財団法人中央競馬馬主社会福祉財団並びに社団法人函館馬主協会から、平成16年度助成金の交付を受け、下記の事業を完了いたしました。ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、財団法人中央競馬馬主社会福祉財団並びに社団法人函館馬主協会をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し、謹んで感謝の意を表します。

事業(設備)名		貫流ボイラー及び附帯設備改修工事	
事業設備内容	設備 規格(型式)	一、貫流ボイラー タクマックスTWAN-750 一、自動軟化器 タクマTS-18J 一、真空暖房ポンプ 荏原2AC1K5型 一、蒸気ヘッダー 別注品	1基 1基 1基 1基
	事業総額	一金 7,030,800円也	
財源内訳	助成金	4,000,000円	
	自己資金	3,030,800円	
	計	7,030,800円	
実施期間	着工	平成16年10月29日	
	竣工	平成16年11月30日	
摘要		本部会計 固定資産取得費(7,030,800円)	



蒸気ヘッダー

自動軟化器
タクマ TS-18J



貫流ボイラー
タクマックスTWAN-750



真空暖房ポンプ
荏原 2AC1K5型



しせつ探検隊

当施設正面玄関を入ると右手側の壁に1枚の大きなアンティーク風の鏡が掛けられています。

時はさかのぼり昭和28年菱沼吉巳医師が当施設の嘱託医として就任なされました。当時は現在のような通院という形をとる事は出来ず、嘱託医による往診が入所者の皆様の健康を支えておりました。その菱沼吉巳医師（以下先生）が昭和30年に医院（市内堀川町）を新築された際、当施設への日頃のご貢献に対する感謝の印として当法人より大きな鏡を贈呈させて頂きました。

菱沼先生をはじめ、医院の皆様は毎日鏡をお手入れ下さり、平成12年に菱沼先生が嘱託医をご退任（閉院）されるまでの45年間という永きに亘り医院の診療室にて大事にお使い頂いておりました。

平成14年、菱沼先生がご他界なされ、医院も取り壊されたことからご遺族の皆様のご厚意により、平成15年12月24日クリスマス・イブの日に、この鏡は48年の時を超えて当施設に帰郷致しました。



帰郷した鏡

これからは、この鏡が菱沼先生のご意志を引き継ぎ、入所者の皆様の健康な姿を写し出し、いつまでも優しく見守っていてくれることでしょう。

（記者：田中真澄）



鏡の帰郷式

鏡の由来

この鏡は、昭和28年にご就任の当施設の元・嘱託医師、故・菱沼吉巳氏が昭和30年に医院（市内堀川町）を新築なされた際に、日頃のご貢献に対する感謝の印として当法人より贈呈を致したものであり、平成12年に嘱託医師をご退任（閉院）なさる迄の45年間もの永きに亘り、医院の診療室にて大切にご使用を頂いていたものです。

平成14年、同氏をご他界をなされ医院も取り壊されたことから、ご遺族の皆様のご厚意により、平成15年12月24日、この鏡は48年ぶりの里帰りをし、ここに故人のご功績と当法人ならびに施設の歴史の1頁を標すこととなりました。

贈 菱沼 嘉子・宏英

祝新築

昭和叁拾年拾月吉日

社務部 法人
函館共働宿泊所

昭和6年5月、第5代理事長に林儀作氏が就任し、財団法人函館共働宿泊所と改称した。昭和5年12月、火災により全焼した舎屋を、昭和6年8月に総建坪290坪、収容定員200名の舎屋完成再興したのだが、その2年半後の昭和9年3月、函館市空前の大火災に再び罹災し、不幸にも一切を灰じんに帰した。さらに、その翌々年の昭和11年、狭心症にて各界より惜しまれつつ他界された。

53歳の若さでこの世を去らねばならなかった無念さを推し量るとき、さぞや断腸の思いであったろうと推察される。

平成12年4月1日「ステップアップ 133」4月号（財団法人函館市文化・スポーツ振興財団発行）によると林儀作氏は、「明治16年佐渡で生まる。（略）生家が鉱山業を営んでいたことから佐渡鉱山学校で学ぶ。佐渡毎日新聞に在社していた時、同郷の長谷川世民（略）に招かれて函館の北海新聞に転じ健筆を振るう。（略）大正7年函館日日新聞創刊に加わり、主筆兼編集局長として永く世民とペンを競う。この頃の新聞記者で林程の博識者はいなかったと言われる。

林の知識は、和漢洋を問わず、しかもその学識の門戸は極めて広がった。文字通り、温故知新そのもので、その時々新しい学説、思想と言ったことに、明快な所見を述べていた。（略）大正13年から2期、北海道会議員となる。（略）博識と卓見から繰り出される名演説は、反対派議員をも傾聴させたという。第18回総選挙に初出馬し強敵を退けて当選したのも、林の人望が厚かったことによるものだろう。（略）」と紹介されている。

（注、本文では林氏を号の「濁川」と記述されておりますが、「林」と読み替えさせていただきました。）

又、第5代理事長林儀作氏の人となりは、1961年12月発行の海峡第84号「函館物故記者列伝（6）」の中でも、常野知哉氏により紹介されている。

「（前略）林さんを尊敬した動機に、その学識の高さの他にもう一つこういう事があった。地蔵町に、西沢という玩具小間物の問屋があった。或時、この主人の西沢氏を林さんが訪問して「雛人形一揃を、月賦で買って貰えまいか」との頼みだった。当然、林さんの子供の為に買うのだらうと思うと、そうではなく「今日一寸慈恵院の孤児を訪ねて見たが、おひな様が無いとのことだったので、買ってあげたいが、一度では払えないので、月賦で買いたいのだ」との事だ。西沢さんは、即座に、最高のものを10カ月払いにして、林さんの名前で、慈恵院に届けた。まあ一二度も払ったら、後は、負けるという事になるだろうが、それでも、孤児達の為には、嬉しい贈り物をした事になるから、という考えで、西沢さんは、二つ返事で引き受けた。それから10か月、安月給の中から一度も遅れる事なく、林さんがその金を届けた。「あの男は偉くなりますよ」と西沢さんからこの話を聞いた時、僕も胸をうたれたのだった。（後略）」

引用文献・参考資料/

「ステップアップ」 133 4月号 平成12年4月1日発行 財団法人函館市文化・スポーツ振興財団

「北海道歴史人物事典」北海道新聞社編 1993年7月21日発行

「海峡」第84号 1961年12月1日発行 海峡評論社編 「函館物故記者列伝（6）」常野知哉著

（市立函館図書館所蔵）

歯に衣着せぬ評論で「毒舌の濁川(だくせん)」と呼ばれ、新聞記者から代議士となり志半ばでこの世を去った佐渡出身の林儀作

林 儀 作 (1883～1936)



昭和16年、佐渡で生まれる。号を濁川と言った。出身地の佐渡濁川の町名をとった。生家が鉱山業を営んでいたことから佐渡鉱山学校で学ぶ。佐渡毎日新聞に在社していた時、同郷の長谷川世民（函館新聞界を代表した硬骨の言論人）大衆作家・海太郎、画家・瀧二郎、ロシア文学の清、作家・四郎の父本名・長谷川淑夫に招かれて函館の北海新聞に転じ健筆を振るう。明治43年、筆禍事件「北海新聞」の発行が禁止となった事件で世民と濁川は禁固刑を受け、出獄のあと世民は平出喜三郎経営の函館新聞へ移ったが、濁川は一時浪人生活を送り、大正7年の函館日日新聞創刊に加わり、主筆兼編集局長として永く世民とペンを競う。

この頃の新聞記者で濁川程の博識者はいなかったと言われる。濁川の知識は、和漢洋を問わず、しかもその学識の門戸は極めて広がった。文字通り、温故知新そのもので、その時々新しい学説、思想と言ったことに、明快な所見を述べていた。相手が坊主であれば、仏典を論じ、宗教哲学が飛出し、相手が医学者であれば近代医学から漢法医学と、まくし立て、裁判官、検事連が相手ならば、法理論が始まるといった工合で、それが専門的に、堂々と渡り合つて、何時の間にか、それどころか、家が濁川の話で、傾聴する専門家が光景であった。それが単なる濁川の話術の巧みさというものでなく、その学識の深さがあった。濁川には、末広見香の芸者・お新さんという彼女がいた。何かの宴会で、佐々木平治郎代議士が、からかって濁川のことを、悪口を言ったことがあった。お新さんはこの晩に限って珍らしく荒れて、おや、新聞記者の方が代議士より、偉いのだと思つて、惚れていたのに、代議士の方が偉いのかね。そうと判つたら、あたしや、ハーンさんを代議士にしてお目にかけるわ。たかが新聞記者で悪かつたわね。と満座の運命とはおもしろいもので、大正13年から2期、北海道会議員となる。お新さんのタンカも現実のものになった。

写真・参考資料/「海峡」海峡評論社、「北海道歴史人物事典」北海道新聞社編

掲載文献/ステップアップNo133 4月号 平成12年4月1日発行 財団法人函館市文化・スポーツ振興財団

写真・参考資料/「海峡」海峡評論社、「北海道歴史人物事典」北海道新聞社編

（市立函館図書館所蔵）

平成16年1月16日(金)、函館ハーバービューホテルにおいて、平成16年度函館防火協会総会が開催されました。

席上、函館防火協会会長西野清一氏より、当・社会福祉法人函館共働宿泊所に優良会員として、平成16年度会長表彰が授与されました。

平成16年度函館防火協会 優良会員会長表彰



会長表彰を授与される越前政子理事長

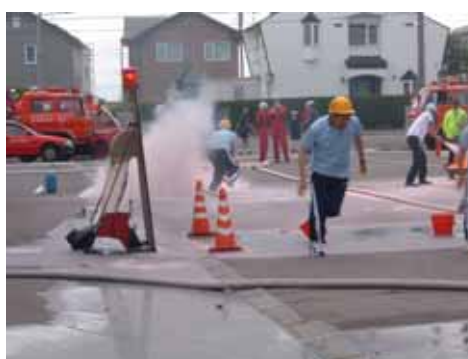
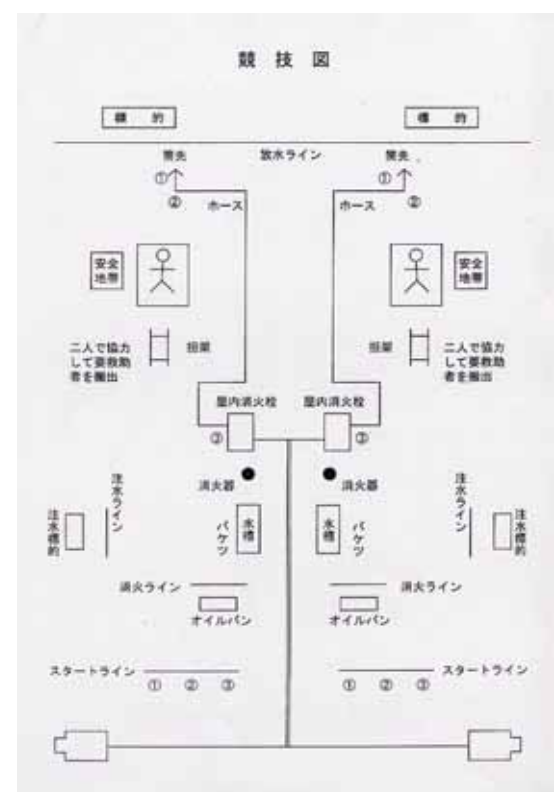
自衛消防技術大会

平成16年7月6日(火)、函館市桔梗町の消防総合訓練センターにおいて、自衛消防技術の向上を目的とした自衛消防技術大会が開催されました。

当施設より、男子職員2チーム(若手組・熟年組)と女子職員1チームが参加致しました。結果、女子職員チームは優勝の栄誉に輝き、かたや、男子職員2チームは12位13位に終わり、見事燃え尽きてしまいました。

次回こそ男女ともに輝かしい結果を残し、誌面を飾っていただけることを期待致しております。(本誌記者)

優勝



平成16年度誕生会
平成16年12月3日



当施設の名物行事の一つとして、偶数月生まれと奇数月生まれに分け、今年は奇数月生まれの方々にご出演頂きました。各月ごとに出し物をご披露頂きましたが、今回は5月生まれの方々を特集しました。

5月生まれ・踊り「マツケンサンバ」



マツケンサンバ社中御一行様



通信欄

秋の健康診断結果表

平成	年	月	日	実施
身長				cm
体重				kg
血圧				-

胸部レントゲン				
異常	有り	無し		

糖	検	尿	蛋白	
()			()	




広報 函館発
共働通信
第11号 / 平成17年1月1日

発行
函館共働宿泊所救護部
発行責任者
越前典洋

編集
広報誌編集委員会
編集責任者
内村康彦

〒042-0903
北海道函館市東畑町158番地の2
電話0138-58-4040

 社会福祉法人函館共働宿泊所・函館共働宿泊所救護部のホームページに、広報誌「共働通信」のバックナンバーを掲載致しました。皆様のアクセスをお待ち致しております。

ホームページアドレス

<http://www.kyoudo95.or.jp>